

JEG ニュースレター 186号

www.jegschweiz.com

2023年2月11日

小さな証

いいことを沢山しているから救われていると信じていた若者が、ヨハネ15章を通して神様に変えられるまで。

P2

奇跡のカムバック

帰国中の転落事故で重症を負ったリュート奏者の今村泰典兄が、驚異の回復ぶりで2月から演奏旅行をはじめられました。

P3

日出づる国から

母国日本で宣教の種蒔きをする宣教師たち、仙台に転居された斎藤篤師（前ケルン・ボン日本語教会牧師）オーストラリアから近況をお知らせ頂きました。

P4 - P6

ユティカの開催！

冬のユースリトリート「ユティカ」は今回、クローテンで12月28日から30日まで開催されました。その感想文は添付ファイルでご覧いただけます。



小さな祈り

わたしたちの、天にいますお父さま
わたしたちに聞こえる耳と見える目を
あたえてくださり、
あなたのご命令に従順に従うものと
なさしめてください。

スイスJEG年間聖句 神は「エル・ロイ」、私を見てくださる神です。

そこで、彼女は自分に語りかけた主の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。彼女は、「私を見て下さる方のうしろ姿を見て、
なおも私がここにいるとは」と言ったのである。創世記 16；13

東スイス・センチイス連峰の早朝

多くの困難が待ち構えているであろう年の初めに、さまざまな思い、希望、不安、夢、願いなどが胸に去来した新年。
そのような不確実な時代にあって、私たちは決して希望を失わず、私たちが愛して止まない主を見上げ、イエスさまと共に歩む日々を送って参りたいものです。

ちいさな証

神様の子として
ゲルンケマイヤー・マーク
スイス日本語福音キリスト教会



みなさん、こんにちは。
ゲルンケマイヤー・マークと申します。数ヶ月前、JEGの会員になることができたので、ここで小さな証をさせていただきます。

長い間、証をすることが怖いと思っていました。その理由は、証というものは私がどのように神様を見つけたのかを話すものだと思っていた

からです。私はクリスチャンホームに生まれたので、神様を知るのに大したことをしていないから、私にはちゃんとした証がないと長い間思っていました。逆に今は、証は神様が私の人生に何をしてくださったかを話す事だと思っております。ですから、神様が私の人生に何をしてくださったかを語っていきます。

私のお父さんはアメリカ人で、お母さんはドイツ人ですが、私は2歳の時からスイスで暮らしています。クリスチャンの両親に恵まれて、毎週日曜日、教会の日曜学校に行っていました。信仰を持っている両親のおかげで、幼い頃から神様がいて信じていました。7歳くらいの時にお母さんと一緒にイエス様を信じて心に受け入れたいと祈りました。しかし高校生になった時、クリスチャンの友達がほとんどいなくて、学校やノンクリスチャンの友達に良くない影響を受けたので、信仰的に高校の時は大変でした。

その時にクリスチャンとして生きるには、何よりもまず自分の力でいろんないいことをやる事だと思いました。定期的に聖書を読みましたが、神様をより深く知るためにはではなく、自分の知識を広げるために聖書を読みました。今思うと知り得た知識は少しかったです。頭ではイエス様が十字架で死んで下さったことによって自分は救われたと分かりましたが、心の中では、自分がたくさんいいことをやっているから救われていると思ってしていました。クリスチャンとして生きるのちょっと面倒だなと思ったこともありました。この前の説教でマイヤー先生が持つ必要のない重荷を負っているクリスチャンの話をしました。高校生の私もそういうクリスチャンだったなと思いました。

教会の先輩が高校卒業後に短期神学校へ行ったので、私もそうしたいと中学生の頃に決めました。高校を卒業した後、大学に入る前にギャップイヤーをしたくて、神学校へ行く以外にしたい事があまりなかったので結局、神学校でTorchbearers [聖火ランナーという意味]という団体の6ヶ月間のコースに行くことにしました。今振り返ると、神学校へ行ったことは本当に神様の恵みと導きでした。毎日午前中は聖書について授業があり、午後は祈り会や信仰に関する本のブッククラブやまた家事もやりました。しかし、ただ頭で知識を学ぶのではなく、心も神様に癒されました。具体的にいうと、ヨハネ15章を通して神様に変えられたのです。

「わたしの話した言葉によって、あなたがたは既にきよくなっている。わたしにつながっていないさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。」

ヨハネ 15章3-4節



自分の力でいろいろやっていた時はぶどうの木であるイエス様に繋がっていなかったことに気づかされました。イエス様のおっしゃった言葉によって私はもうすでにきよくなっており、神様の子として愛されています。自分の力でどんなに頑張ってもこの地位を得ることはできないと学びました。

これが分かってから神様への感謝の気持ちや喜びや讃美が増えました。しかし、数週間後には、また自分の力で生きていることにも気づかされました。信仰的な学びは一回学んで次のことへ進むよりも、あることを何回ももっと深く学ぶ必要があると思います。私の場合は主に頼ることさえ自分の力で出来ません。ただし、天のお父さまは忍耐強いお方であり、私たちを毎日新しくし、必要な物を与えてくださるお方です。感謝の心で主を讃美しましょう。

「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。あなたの真実はそれほど深い。」哀歌3章22-23節



1、ユースリトリート Yutikaの開催



この冬もスイスJEG主催のユース・リトリートYutika2022が、参加者・スタッフ含め40人の参加で、今回はチューリッヒ市近郊のKlotenにて12月28日から30日まで行われました！

参加者の内3人がほとんど教会に行ったことがないか、キリスト教に馴染みのないメンバーでした。中学生から三十代までの若者たちが共に神様を賛美し、みことばを通して神様と向き合う、あたたかく落ち着いた雰囲気、二泊三日となりました。

講師に、Nathanael Gaub宣教師と、Martin Meyer師をお招きしました。また、恋愛・結婚講座には、ウクライナから船越真人先生がzoomを通して参加してくださいました。JEGとDüsseldorf 日本語教会から、総勢五人の方々がキッチンと買い物などの奉仕をしてくださいました。

皆様のお祈りに支えられ、コロナを始め感染症からも守られて、ノンクリスチャンもクリスチャンも共に神様を見上げ、主にある愛の交わりを持つことができたことを心から感謝します！参加者の感想文が添付されていますので是非お読みください。



2、クリスマス伝道礼拝ならびに新年礼拝

スイスJEGの22年のクリスマス礼拝は12月18日に3年ぶりにマスク等の規制がまったく排除されたなか、お客さまも大勢お迎えして祝福のなか捧げられました。また、その後の祝会も3年ぶりの愛餐会形式で催行され主の誕生の喜びに満たされました。

1月8日には、元SAMの宣教師で20年間横浜と千葉で牧会されていたウエスト・ハンス元牧師をお迎えして新年礼拝を捧げました。ウエスト牧師の新年に相応しいメッセージ”神を信頼して前進すること”はスイスJEGのホームページでご視聴いただけます。

また、新年礼拝のあとに、スイスJEGの2022年の出来事動画をまとめて振り返りました。22年も主が共にいてくださったことを覚え感謝いたしました。その動画は以下のURLをクリックしてご覧いただけます。(13分)

<https://www.youtube.com/watch?v=da79QJGutXU>



スイスJEGクリスマス祝会のスナップ

3、今村泰典兄が演奏活動に復帰されました。

昨年の秋、日本で事故に遭い、左肩の複雑骨折ほか骨盤、顔面、小指に負傷を負い、スイス帰国後も療養とセラピーに励んでいた主人、今村泰典ですが、1月27日から3週間パリ、ハンブルク、マドリッド、バルセロナ各地を巡る演奏旅行へ出かける事となりました。リハビリを続けるのが辛くなった昨年の末、不思議な経緯で主人の元に来た仕事(ヘンデルのオペラ)の依頼を、彼は主からのものと受け止め、主に信頼し、まだ楽器を触ることもできない時ではあったものの、感謝してリハビリと練習に励み、昨日(2月7日)パリでコンサートツアーの初日を無事終えることができました。



パリでのコンサート

このような早い仕事への復帰は本人も家族の誰も予想してはおらず、医師やセラピストも驚いています。この素晴らしい恵みがただ主の栄光の証となりますようにと祈っています。主人の事故以来、長きに渡りお祈りくださった兄弟姉妹の方々に心より感謝いたします。また、事故後、付き添いなしでの初めての旅行となります。この演奏旅行が守られますように引き続きお祈りをよろしくお願いたします。

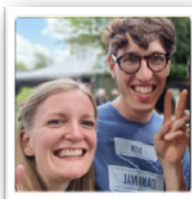
今村葉子記

4、J姉妹が日本にむけ出発

日本人宣教への熱い思いを胸に、J姉が2月8日(水)にJEG関係者と地元教会の関係者に見送られて日本に旅立たれました。神学校を米国からのオンラインで卒業され、日本語を独学で必死に学ばれたJ姉ですが、神様の不思議な導きで日本に職を得られ、関西を拠点にイエス様の愛を伝えることとなります。

これまでの神の家族の一員としてのお交わりに感謝して、これからの日本でのお働きが主に守られて祝福されますようお祈りいたします。

5、ナタナエル兄とサラ姉が日本に！



フランクフルト日本語福音キリスト教会やキリスト者の集いで、若者と主のための働きを重ねて来られたナタナエル・ガウブ兄(両親も滋賀で宣教)と伴侶のサラ姉が、この3月、若者に福音を宣べ伝えることを使命に、WEC国際宣教会から日本に送り出されます。どうか、若きお二人のためにご支援とお祈りをおねがいします。Nathanael & Sara Gaub <nata828sara@gmail.com>

6、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています！

工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ミラノの風、ハーベスト・タイムズ・ミニストリーズ月報、松本章宏ユニオン・NL、森ゆり空レタ配達人、ミッション”宣教の声”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

日出づる国から

主とともに歩む

大八木タビタ

川崎市菅生キリスト教会

「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。
神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。」

伝道者の書 3章11節

過ぎ去った一年は、私たち家族にとって、いろいろな意味で恵み多き一年でした。去年の今頃、長男の献は大学受験に立ち向かっていました。とても厳しい時期でしたが、たくさんの実りを与えられて、第一志望の大学に受かることができました。

目標はやっぱり高すぎたのだろうと、ほとんどあきらめていたところに、合格の知らせが来、それ以来、献は、これは神様の恵みの導きだと言っています。新しい大学生活にすなりと慣れることができ、新しいお友達も作れましたし楽しく学んでいます。ドイツ語を専攻しています。

6月に、私たちは20年目の結婚記念日を迎えました。山あり谷ありの20年でしたが、神様は大きな恵みをもって私たちをここまで守って導いてくださいました。9月に、献は洗礼を受けたいと申し出て、教会の中山先生にお願いし、準備会を経て12月18日に洗礼を受けることができました。



献の洗礼の日の写真

義理の父の健康状態が2月から少しずつ衰えてきて、義理の母は介護に苦勞するようになり、義父が入れる施設を探し始めました。それがとても難しく、入れそうな施設を見つけられませんでした。そこで、[ダマリス・メモリアル・ケアセンター](#)の話が上がり、持永義也さんがわざわざ川崎まで訪ねてきてくださり、事情を詳しく調べた結果、義父を迎えてくださることになりました。

歳をとった義父と義母のために、神様がこのような道を開き、福音に触れる機会を大きく増してくださったと感謝の気持ちでいっぱいです。

献は、夏に続き、奥多摩福音の家の中高生ウィンターキャンプにも参加しましたが、今度は僕も洗礼を受けたいと決心することができました。イースターに向けて準備会を始めることになりました。

神様の御業を感謝し、さらに期待して祈り、これからの一年も主とともに歩んでいきたいと思えます。

一万枚のちらし

クツツ・プリスキラ

茨城県桜川キリスト教会

2022年クリスマスのイベントのために、9000枚のちらしを新聞折り込みで依頼し、さらに1000枚をドイツから来た若いボランティアたちとともに投函したり、個人的に配ったりしました。さて、何名の方が来てくださったのでしょうか？

クリスマスカフェに、ポストで受け取ったちらしをもとに、一人の女性が来てくださいました。バスで20分かけて、わざわざ桜川の小さな教会を訪ねてきました。中には上がりませんが、玄関で少しお話ができました。残念ながら、急用ができて？帰って行かれました。

個人的にお誘いした方が3名、初めて教会を訪れ、ささやかなクリスマスカフェを喜んでくださいました。コンサートの時には、以前、学校の教員をしておられた方が参加してくださいました。この方も、やはり個人的なつながりで、去年も来てくださいました。

日出づる国から

一万枚のチラシに対して、普段、教会とつながりのない方が5名、来てくださいました。たった5人です。私たちの努力には意味があったのでしょうか。なぜ、人は来てくださらないのでしょうか？

今まで、似たような状況は何度もありましたが、正直なところ、同僚の若い宣教師夫婦と私は、少しがっかりでした。一応、40人分のクッキーをきれいに包んでおき、教会をきれいに飾りつけて、音楽の演奏を練習して、礼拝や分かりやすいショートメッセージの準備にも精神を注いできました。それにしても、今回のクリスマスは、前年度より多くの参加者とともに迎えられました。4名の教会員に加えて、時々礼拝やSing and Prayに参加される方も数人見えました。これは本当にうれしかったです。

個人的な関わりがどれほど大切かを、改めて実感しました。大勢の人が来るより、一人一人が大切であることも、再確認しました。宣教は、私たちの努力によるものではない。神様が働いてくださることを知っています、また、信じています。そうでなければ、私たちはとっくにあきらめていたでしょう。また、皆さんが祈りをもって執成（とりな）してくださることは大きな励みです。このように皆さんも、人が主イエス様を知り、信仰による個人的な関係に導かれるのを助けてくださっています。

私たちがこれからもあきらめずに、信仰と期待をもって奉仕を続けられますようにお祈りください。また、クリスマスに初めて来てくださった方が、また来ますように、そして、配られたチラシによって、ほかにもお誘いに応じる方が起こされますようにお祈りください。



クリスマス、私はホームに母を訪ねました。です。

この2023年に、人々が私たちや、桜川の教会、そして主イエス様ご自身に出会うことができますようにと願っています。皆さんもあきらめずに、祈り続けてくださると感謝

一人一人が癒されて

ローゼンクランツ クリスチャン・直美
ジーザスコール東京

東京開拓4年が過ぎました。開拓1年目の終わりにコロナが始まり、伝道の方法においても今までとは違うチャレンジがあり、今振り返るとなかなか前に思い切って進めないような葛藤を感じる4年間でした。それでも少しずつ集まる人も増え、受洗者も起こされてきていて、ある意味着実な土台を建て上げてる道の途中におかれていると思うと感謝です。



昨年の4月からミニストリースクールが14名で始まり、教会の若い働き人たちが育っていることもこの1年の前進につながっています。

一人一人が癒され、解放されて喜びに満ちて仕えていく姿は私たちにとって大きな励みであり希望です。

また、コロナ禍において、ネパール人の福岡の教会メンバーつながりで2020年5月より食料支援を始めましたが、そのことによってスタートした教会も少しずつ成長中です。ネパールに行く機会をそれ以来ずっと待っていましたが、やっと規制もなくなり、今年の5月にはミニストリースクールの生徒達も合わせて10名で宣教旅行に行くことになりました。

地域を回って伝道集会をし、教会を励ますだけでなく、食料支援や就業支援もできればと準備していますので、ぜひお祈りください。そして、今年の秋には家族で4年半ぶりにスイスに帰省することができそうです。その時には、スイス日本語教会で田辺先生により献児式をしていただいた志音も20歳です。今では開拓教会で必要な色々な準備、賛美、イベントまで手伝い、大学でもバイブルスタディーをして友達を導いています。子供たちは本当に主の賜物です。

日出づる国から

主イエスの御心に生きること

齋藤 篤

仙台宮城野教会

2015年の春に欧州から帰国し、早いもので8年が過ぎようとしています。私たちは、東京での伝道牧会生活に別れを告げ、昨年より仙台の地で新たな牧師生活を過ごしております。東京に比べれば自然も多く、前任地に比べたら十分にゆとりがある環境のなかで、腰を据えてじっくりと宣教に携わろうと思っておりました。

しかし、神様は私をそのようにはさせてくさいませんでした。7月8日に起きた、安倍晋三元首相銃撃事件によって、カルト宗教問題が日本国中を騒がせることとなり、それに連動するかのよう、この問題に取り組んできた私の仕事量が、この日を境に何倍にも膨れ上がったのです。相談業務の急増、それにとまなうシステムの見直しと改定、他団体とのネットワーク

構築、次々と来る取材に原稿依頼、そして書籍の出版などなど、まさに、カルトと共に生きる日々を過ごしております。

しかし、こういう作業を通して、福音とは何かということを変更して考えさせられる機会が与えられたのだと、神様に感謝するばかりなのです。特定の人物だけが得をし、他者の大切なものを奪い取るような宗教のイメージを覆すことができるのは、ただ自己犠牲、アガペーの愛に徹頭徹尾生きた、十字架と復活の主イエスの御心に生きることによって得られる幸いに他ならないのだと、そう改めて思われるのです。

私的なことを申し上げれば、介護の必要が生じた父を10月に引き取りました。私が神を求めるきっかけとなった、家族を捨てた父を引き取ることは大きなチャレンジでした。しかし、神が与え、神が父の罪を赦してくださることを信じた末の決断でした。その父も、11月の末に息を引き取りました。臨終の席に立ち合うことはできなかったのですが、その場に駆けつけてくれた妻の朗子牧師が、父に洗礼を授けてくれたことは、神が与えてくださった大きな慰めでした。こうして、神は必要な助けを、実にタイムリーに与えてくださる。本当に感謝なことです。

欧州にあるすべての主にある皆さんの一切に、主の守りと平安がありますようにお祈りいたします！

ホームスクーリングが始まります！

菊地祥彦

オーストラリア・アデレード在住

オーストラリアの暑い夏のクリスマスも、今回で6回目でした。日によっては40度にもなる暑さに、東北から来た私にとっては、最初とても不自然に感じられました。しかしもう大分慣れたもので、マンゴーやチェリーといった夏の果物を味わい、日没が8時半以降になることをいいことに、屋外でも友人たちと一緒に遅くまで時間を過ごします。

クリスマスが過ぎ、新年が過ぎ、もうすぐ息子の誕生日(1月26日)がやってきます。早いもので、もう6歳になります。今月末からいよいよ公にホームスクーリングがスタートします。妻と二人で協力して彼を教えるのが今からとても楽しみです。祈っていたクリスチャンのホームスクーリング・コミュニティも、15家族程も与えられ、感謝が胸がいっぱいです！

神様は溢れるばかりの祝福を与えてくださるお方です。新年も、常にすべてのことに満ち足らせてくださる祝福に満ちた神を、大胆に褒め讃えて歩んでいきたいです。



ドイツ語版の完成近づく！！

ドキュメンタリー「ダマリス」

～蒔かれた種、結ばれた実～

愛する娘が放火により焼死させられるという過酷な運命がスイスからの宣教師家族を襲った。しかし、一家は日本に踏みとどまり、40年もの長きに渡り、日本人の救霊に愛と人生を捧げたクンツ宣教師一家。その家族と宣教に寄り添い働かれてきた持永師の姿を通し、痛みをただそれだけで終わらせず、宣教の働きを続け、新たな力、いのちを与えてくださる神様の愛を伝える感動の実話のドイツ語への翻訳作業がほぼ終わり、現在、訂正、補足等の仕上げ作業に入っています。これが完成すれば、ドイツ語圏の人々にも観ていたけるようになります。

日本語版：<https://www.youtube.com/watch?>

小さくても祈りの灯を
広瀬志保
在欧日本人宣教会



スイス教会のニュースレターを読まれる全世界の皆さん、こんにちは！ 在欧日本人宣教会です。在欧日本人宣教会は、その名の通り、ヨーロッパでの日本語を解する人たちへの宣教のために立てられた宣教団体で、「ザイオー」の呼び名で親しまれています。

在欧日本人宣教会は、おもに三つのことを掲げて活動をしています。第一に、ヨーロッパにある約40のキリスト教会・集会の現地での宣教を、祈りとサポートによって支えたいと願っています。「欧州宣教祈禱会」では、欧州各地から祈禱課題をいただいて、祈りの手をあげ続けてきました。

第二に、帰国者クリスチャンのために交わりや学びの場を開き、励ましたいと考えています。帰国される先の地域の教会を紹介することもできると思いますので、帰国者ご本人はもちろん、帰国者を日本に送り出す牧師先生や信徒リーダーの方も、ぜひいつでもご相談ください。恒例の「クリスマス会」は、コロナ禍を経て昨年、三年ぶりに対面開催されました。久しぶりの再会、初めての出会い、夏の集いに参加された方たちの分かち合いなど、対面ならではの交わりと祈りが与えられ、主に感謝しました。



欧州宣教祈禱会 2023年2月3日開催

第三に、欧州と日本の教会やクリスチャンのつながりを作りたい、と願っています。実に多様な欧州の諸教会・集会。しかし同じ主のからだの部分として、互いを必要とし、互いのためにとりなす交わりが形成されていくことは、御心だと思います。機関紙「在欧日本人宣教」は次号で111号を数えます。欧州各地の教会、クリスチャンの寄稿、また帰国後の歩みの証や催しの紹介など、毎号盛沢山です。また、今年は日本福音同盟のお力添えもあり、「ヨーロッパzoomコネクション」がスタートします。どなたでもご参加できますので、ぜひお気軽にお集いください！

在欧日本人宣教会は、在英日本人宣教会として1995年に発足して以来、何度か節目と呼ぶべき時代を経験しました。2022年度もまた、その節目の一つでした。派遣宣教師の安藤廣之師・里佳子師が退任され、運営委員の顔ぶれも変わりました。主は、在欧日本人宣教会にどのような夢を描いておられるのか、あるいは果たして今、「ザイオー」と自称しつつ日本で欧州を思う私たちに、出来ることは残っているのだろうか、悩むこともあります。

しかし、私自身にとっても地上における魂の故郷と言うべき欧州の地で、今まさに主に出会う方があることを思うとき、またそのお一人おひとりのために日々霊の戦いの前線で奮闘しておられる働き人があることを思うとき、小さくても祈りの灯を絶やしてはいけなく、と今はそのように考えています。祈りにこたえてくださる主は、いつも真実です。



「どうか、希望の神が、信仰によるすべての喜びと平安であなたがたを満ちし、聖霊の力によって希望にあふれさせてくださいますように。」(ローマ15:13)

今も、ふるさと日本で、スイス・欧州の皆さんを主にある兄弟愛をもって、祈りのうちに思い遣っています。

お問い合わせ：joutreach@gmail.com
Facebookページ：<https://www.facebook.com/zaiou.jom>
公式Webサイト：<https://www.joutreach.org/>



クリスマス会は3年ぶりに対面開催！

ナタナエルとサラの宣教報告

ガウブ・ナタナエルとサラと申します。現在フランクフルト日本語福音キリスト教会とインターナショナルチャーチ(Frankfurt New Life Church)で礼拝を守っています。

ご存知の方もおられると思いますが、僕は日本育ち、妻のサラはドイツ育ちです。去年は初めて二人で日本を訪れることができ、日本宣教へと導かれているかどうか確認する機会となりました。サラは4年前からWEC国際宣教会の事務所で働いてきて、僕は2年前から同じ宣教会を通してフランクフルトに住んでいる日本人に福音を伝えるチャレンジに取り組んできました。多くの日本人と出会い、どうかしてでも福音を伝えようと工夫してきました。日本語教会のティーンズたちと聖書勉強会をスタートできたのは嬉しいことでした。集いやユティカに参加し奉仕できたのも大きかったです。

3月には宣教師として日本へ引っ越す予定です。最初の2年間は主に語学、文化、聖書の勉強となりますが、長期的には「若者に福音を伝えたい」と願っています。



神はすべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

私たちに大きなことができるのかはわかりませんが、神様の御心を大切にして、大宣教命令に励んでいきたいと思っています。

皆様にもサポートしていただきたいと思い、報告をさせていただきました。お祈りと支援をしていただけたら幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

定期的にアップデートや祈祷課題を送り出しているのですが、よろしければこちらのQRコードからお申し込みください。



経済的支援方法

銀行名: **Frankfurter Volksbank**

口座名義: **WEC International**

IBAN: **DE34 5019 0000 0004 1320 09**

利用目的欄 1: **Nathanael & Sara Gaub**

利用目的欄 2: **ご自分の住所**

お問い合わせ

nata828sara@gmail.com